

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

<p>【めざす学校像】 ~ 日本一の高校をめざして ~</p> <p>大阪を代表する公立高校として、教育のあるべき姿を追求し、府民から信頼され、誇りとされる学校。 日本や国際社会で活躍する高い「志」を持ったリーダーを育成する学校。 全てにおいて「チーム天王寺」として組織的に一丸となって取り組む学校。</p> <p>【生徒に育みたい力】</p> <p>自由闊達・質実剛健・文武両道の校風を理解し、深い教養を身につけるだけでなく、行事・部活動・探究活動等に積極的に取り組む意欲。(意欲) 目標に向かって全力を尽くすために必要な思考力・判断力・表現力と、それらに基づく行動力。(行動力) 世界市民として多様性を理解し協働性を備え主体的に社会貢献しようとする高い志。(志) 様々な個性の存在を理解するとともに尊重し合う優しさ。(優しさ) これからの社会を創り出していく本校生が、社会や世界に向き合い関わり合い、自らの人生を切り拓ひらいていくために求められる資質・能力 (「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含む学力)</p>

2 中期的目標

<p>1 学力の育成</p> <p>(1) 天高スタンダードに基づいた高い学力、および新学習指導要領がめざす「知識・技能」に加え「思考力・判断力・表現力」と「主体性・多様性・協働性」を含んだ「確かな学力」の定着に取り組むとともに、新学習指導要領・高大接続改革を見ずえたカリキュラム・マネジメントを行う。</p> <p>ア 授業アンケートにおいてアンケート項目の全体平均 3.45 以上を維持する (H30 年度は 4 点満点で 3.47)。</p> <p>イ 「大阪府部活動の在り方に関する方針」を踏まえ、バランスのとれた文武両道を追求する (部加入率 95% 以上を維持) 。学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させ、(H30 年度 74%) 70% 以上を維持する。</p> <p>ウ 「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、授業改善に向けた取組みをさらに進め、より洗練された指導法を開発し共有する。</p> <p>エ 高大接続改革において導入される大学入学共通テストについては、生徒・保護者に適切に情報を提供して必要十分な準備を行う。また、個別入学者選抜における改革の動向及び「主体性・多様性・協働性」に対する評価のあり方に関する検討状況について、情報収集と研究を行い、進路指導体制に反映させる。</p> <p>オ 新学習指導要領が求める観点別評価及び高大接続改革における主体性の評価について、これまでの取組みを発展充実させ、パフォーマンス評価として、より洗練されたルーブリックの開発と共有をめざす。また、生徒の活動に対するポートフォリオ評価のあり方について研究を行う。</p> <p>カ 4 技能を備えた英語力を身につけさせるため、指導方法・カリキュラムの研究を継続するとともに、国際教育の機会を通じて、学習の動機付けを行う。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む</p> <p>ア 天高育成プログラムを基に、各教科で 3 年間を見通した学力育成プログラムを展開する。また、各教科の自主教材のさらなる充実を図る。</p> <p>イ 研究授業、公開授業を充実 (教科の枠を超えた授業研究の実施) し、互いに見学する回数を 1 人平均 5 回以上にする (H30 年度は 7.0 回)</p> <p>ウ 4 技能を備えた英語力を生徒に身につけさせることのできる指導法を確立し、全英語科教員が取り組む体制を整備する。</p> <p>エ 「パフォーマンス評価」及びその達成度の基準を示す「ルーブリック」や「ポートフォリオ評価」など、さらに洗練された評価法を開発し共有する。</p> <p>(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ</p> <p>ア 文理学科全員が学校設定科目「創知」において行う課題研究について、2020 年度までに効果的な指導・運営・評価方法を研究し、全教科教員で支援する体制を確立する。研究の成果をグローバルリーダーズハイスクール 10 校で共有し、新学習指導要領の新科目「理数探究」のモデルを大阪から全国に発信する。</p> <p>イ 桃陰セミナーの活用を一層推奨する。土曜日は学校で自学自習の習慣づけ</p> <p>ウ 部学習日を充実させる。同じクラブ内での相互指導と学習</p> <p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p> <p>(1) グローバルリーダーの育成</p> <p>ア 英語圏との交流、アジア各国各地域との交流、国内での国際活動を通して国際教育を充実させ、全ての生徒に国際感覚を身につけさせる。</p> <p>イ アジア各国との交流を、アジア理解とアジア研究、アジアの若者との英語による交流、国際研究活動の機会として継続する。</p> <p>ウ SSH 拠点校として、グローバルリーダーズハイスクール 10 校対象の海外研修を企画・運営し、その成果を広く共有する。</p> <p>エ 科学に秀でた人材の育成をめざし、SSH の重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営するとともに、重点枠更新を目標に広域での拠点校の取組みを策定する。</p> <p>(2) 生徒理解の促進と安心な学校づくりのための体制の確立をめざす。</p> <p>ア 教育相談委員会の充実をはかり、担任、学年団、カウンセラーと連携し、様々な原因でつまづきを感じる生徒を支援する。</p> <p>イ H19 年に学校教育法が改正され、「高校においても障がいのある生徒に対し、障がいによる学習上または生活上の困難を克服するための教育を行う」と規定されたことを踏まえ、天王寺高校としての生徒への支援体制を確立し、発達障がいに関する共通理解を深め、インクルーシブ教育推進を行う。</p> <p>(3) 京都大学・大阪大学・大阪教育大学・大阪工業大学との連携協定に基づきグローバルリーダーズハイスクールの事務局校として各大学との連携を進める。</p> <p>3 教員の資質の向上</p> <p>ア 新規採用教員に対して実施している「桃陰塾」を継続発展させて教科指導力、生徒指導力の育成をはかる。</p> <p>イ 教員の働き方を見つめ直すとともに、経験の少ない教員の教科指導力と生徒指導力を育成する。中堅教員に学校運営の視点を身につけさせる。</p> <p>ウ 外部教育機関の経験豊かな教員や広報担当者を招聘し、授業展開や新たな高大接続のあり方に主眼を置いた研修会を開催する。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>保護者による回答</p> <p>有効回答数 902 / 1073 (1 年 307・2 年 305・3 年 290 回収率 84%)</p> <p>全項目において肯定的評価が 1 ~ 6 ポイント上昇しており、本校の教育活動に対して概ね肯定的にとらえていただいていると思われる。95% 以上の肯定的回答となったのは、「学校の雰囲気がよく、子どもたちが生き生きとしている」「他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる」「授業参観や学校行事に参加したことがある」「部活動は活発である」の各項目である。特に「授業参観や学校行事に参加」の項目は昨年比 6 ポイントの上昇となったことは、回収率が 84% と 4 ポイント上昇したことと合わ</p>	<p>第 1 回 (6/22) 平成 31 年度学校経営計画についての意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現役の生徒のおかげで本校の卒業生であることを誇りに思うことができる。卒業生として現役の生徒たちのためにできることをしていきたい。 ・GL、SSH 等の取組みについて、中身の改善や向上を支援できたらと思っている。 ・授業アンケートの実施や質問項目の変更に賛成である [授業展開についての質問を (旧) 「先生の声や話し方は聞き取りやすく、わかりやすい。」から (新) 「先生の授業は、内容の深い理解につながるとともに、自分の考えを深める様々な機会を与えてくれる。」に変更した] 教員同士の授業見学を推進していることも良いことだと思う。 ・ディベートでは、勝ち負けだけでなく人権に配慮することを忘れないでほしい。

府立天王寺高等学校

<p>せ、本校の教育に対する保護者の関心の高さを示している。</p> <p>生徒による回答 有効回答数 1052 / 1073 (1年 358・2年 342・3年 352 回収率 98%) ほぼ全項目で肯定的な回答が増加した。「学校での友人関係はうまくいっている」95%、「学校行事の多いことは、本校の特色として魅力的だ」95%をはじめ、肯定的回答が 85%を超える項目が全 37 項目中 25 項目あり、大多数の生徒が本校での学校生活に満足していることを示している。特に「社会人講演会は有意義である」が 8 ポイント、「命の大切さや社会のルールを学ぶ機会が多い」は 6 ポイントと大きく上昇しており、外部講師を招いた幅広い学びの機会を生徒がしっかりと受け止めてくれているものと思われる。</p> <p>教員による回答 有効回答数 67 / 67 (回収率 100%) 「生活指導方針について生徒・保護者に説明を行い、十分な指導が行われている」が 8 ポイント上昇し、「いじめ事象への体制が整い、迅速に対応できている」は 7 ポイント上昇した。スマホ使用についての指導の徹底やいじめアンケート結果への対応体制が整ったことが数字に反映したと思われる。「部活動と勉強の両立ができている」が 7 ポイント上昇したことは、部活動に係る活動方針の策定によるものであろう。一方、「生徒の生活の場とし、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている」「清掃活動が行き届いていて清潔である」の肯定率が 10 ポイント以上減少したのは、トイレをはじめとする施設・設備の老朽化が主な原因と考えられ、府による早急な対策が望まれる。</p>	<p>・教職員の若い人の育成や全体で協力していく体制に力を入れてほしい。</p> <p>第 2 回 (11/30) 学校経営計画の進捗状況についての意見 ・授業評価アンケートについて、そのときは分からなくても後から良さがわかることもある。この数値だけが教員の価値ではないので、嫌われても大事なことを伝えられることも大事にして欲しい。 ・毎年施設関連の学校教育自己診断項目の肯定率が低いのでやはり気になる。どのような援助ができるのか考えたい。</p> <p>第 3 回 (1/25) 平成 31 年度学校評価及び令和 2 年度経営計画に関する意見 ・素晴らしい取り組みだが、これだけのことをしていると、「それでも出来なかった」という自己肯定感を下げる生徒、指導の難しさを感じてつまづいている先生もいるのでは。 ・勉強だけではなく文武両道を実践する生徒の存在に感心している。そのための先生方のサポートにも感心。つまづく生徒もいるだろうが、困難を乗り越えて伸びてほしいと願う。先生方の多忙化には配慮・サポートを期待する。 ・天王寺高校には居場所があった。相互に認め合う居場所があった。今の生徒にとっても、天王寺は温かい場所であると感じる。 ・授業をはじめ、いろんな機会を与えてもらい、自分を客観視する力を子どもにつけてもらったと感じる。付随する先生方の多忙について PTA として協力できることはしたい。 ・生徒が精力的に学んでいる様子に感服。優秀な先生方が多いようだ。 ・天王寺高校の生徒の多くは、高校に入って自分にもできないことがあると実感するように感じる。自分にできる部分を伸ばしていくという視点は大切。今の先生方が「その子にとって」という細やかな発想も持ち合わせていると分かってうれしく思う。</p>
--	---

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力の育成	<p>(1) 天高スタンダードの実施と検証を行い各教科の到達度を高める。中教審答申に示された「確かな学力」を生徒に身につけさせる。また、新しい入試制度を研究する。</p> <p>(2) 学習指導の充実に取り組む。</p>	<p>(1) ア・教科運営委員会で天高スタンダードを点検、整備していく。授業アンケートの結果を高いレベルで維持する。 イ・部活動方針を踏まえたバランスのとれた文武両道を追求し、学校教育自己診断においても部活動との両立ができている生徒の割合を向上させる。 ウ・「主体的・対話的で深い学び」を実現するために、アクティブラーニングなどの指導方法を含む授業改善に取り組み、質の高い深い学びのある授業実践を行う。 エ・高大接続改革に関係する研修会や説明会に参加し、校内での情報共有を行い、可能な範囲で日々の授業等に反映させる。 オ・「ルーブリック」を活用した「パフォーマンス評価」を導入し、課題研究等の評価方法を確立する。また、「ポートフォリオ評価」の研究を進める。 カ・科学オリンピック対策講座を開催する。科学オリンピックへの参加者 150 名以上を維持する。 キ・新学習指導要領による新たな教育課程の編成を進める。</p> <p>(2) ア・研究授業、公開授業の充実 イ・授業改善の取組みの一つとして、授業評価アンケートの質問項目の見直しを行う。 ウ・4 技能を備えた英語力を身につけさせる。</p>	<p>(1) ア・天高スタンダードの改訂を継続する。授業アンケートの全体平均 3.45 を維持する。(H30 年度 3.47) イ・部加入率 95% 以上を維持 (H30 年度 99%)。学校教育自己診断において部活動との両立ができている生徒 70% を維持する (H30 年度 74%) ウ・学校全体で授業改善の取組みを進め、学校教育自己診断において、授業満足度 90% (H30 年度 87%) 進路希望達成に必要な学力をつけてくれる 75% 以上をめざす。(H30 年度 72%) エ・高大接続改革に関係する研修会や説明会での情報を職員会議で共有する。(1 回以上) オ・「ルーブリック評価」の研究をさらに進め、共有し活用する(課題研究等で活用) 「ポートフォリオ評価」に関する研究会等に参加し、職員会議等で共有する。(1 回以上) カ・科学オリンピック対策講座開催。科学オリンピック参加者 150 名以上を維持し、2 名以上の受賞者を出す。 H29 263 名 内、受賞 12 H30 325 名 内、受賞 9 キ・カリキュラム委員会における検討を行う。</p> <p>(2) ア・授業見学 (5 回以上) イ・授業評価アンケート質問項目の改訂 ウ・スピーキングテストと 4 技能対応授業の継続</p>	<p>ア 全体平均 1 回目 3.46 2 回目 3.50 1 回目・2 回目平均 3.48 ()</p> <p>イ 部加入率 100% (学校教育自己診断) 部活動との両立ができている 75% ()</p> <p>ウ 各教科でのアクティブラーニング導入 100% 各教員のアクティブラーニング導入 98% () (学校教育自己診断) 授業満足度 89% 進路希望達成に必要な学力をつけてくれる 74% ()</p> <p>エ 職員会議において、進路指導部等から高大接続改革における英語民間試験や共通テスト記述式問題を巡る動き及び大学の対応について情報共有と対応方針の検討を行った。()</p> <p>オ 各教科でのルーブリック活用 100% 各教員のルーブリック活用 86% 「創知」課題研究の評価で活用した。 8 校連絡会議による主体性評価をテーマとする「高大接続シンポジウム」を開催し、その内容を職員会議で共有した。()</p> <p>カ 科学オリンピック参加 325 名。受賞者 9 名。() H27 121 名 内、受賞 5 H28 232 名 内、受賞 7 H29 263 名 内、受賞 12 H30 325 名 内、受賞 9 R 1 404 名 内、受賞 7 (1/25 現在集計中)</p> <p>キ 教科運営委員会において準備検討に入った。 10 年後の将来像を踏まえたカリキュラムの方向性を立てるべく議論を進めている。()</p> <p>(2) ア 授業見学数 平均 7.02 回 (1/25 現在集計中) イ 授業展開が「深い学び」につながっているかを問う質問に改定した。() ウ 1・2 年生での英語による授業実践の継続 スピーキングテスト 1 年 3 回、2 年 2 回実施 ()</p>

府立天王寺高等学校

	<p>(3) 探究活動の充実、自学自習の習慣づけ</p>	<p>(3) ア・「創知(総)」「創知」における指導・運営・評価方法と、全教科教員による指導体制を継続する。</p> <p>イ・桃陰セミナー、部学習日を充実させる(土曜日を活用した自習活動)、土曜日の半日を「部学習日」として部単位で自学自習を継続し推奨する。</p> <p>ウ・学習意欲を増加させるとともに自己の将来を展望させるための勉強合宿を2・3年生対象に行う。</p> <p>エ・大学進学実績の維持</p>	<p>(3) ア・「創知」を指導する教員を25名以上配置する講座編成を行う。2年生徒360名が課題研究の成果物を完成する。</p> <p>イ・桃陰セミナー参加者数の維持。1日平均250名以上(H30年度1日平均244名)を維持する。 ・部学習日の参加者数の総計500名以上をめざす。</p> <p>ウ・勉強合宿参加者の満足度80%以上。</p> <p>エ・センターテスト5教科受験出願率、学年の95%以上を維持。(H30入試98%)国公立大学合格者現浪合わせて270人以上の維持。(H30年入試277人)</p>	<p>(3) ア 2年生文理学科360名全員による課題研究に対し、教員28名による全クラス同時展開の「創知」を実施。約70班が課題研究に取り組み、校内における発表会を実施する予定。()</p> <p>イ 桃陰セミナー参加者数1日平均198名 部学習日参加者数2395名(12月末現在) 桃陰セミナー・部学習参加者あわせて総合的に指標を達成した。()</p> <p>ウ 勉強合宿参加者の満足度83% ()</p> <p>エ センターテスト5教科受検率96%(出願ベース) 国公立大学合格者現浪合わせて326人()</p>
<p>2 グローバル社会に貢献できる人材の育成</p>	<p>(1) グローバルリーダーの育成</p> <p>(2) 生徒理解の促進と安心な学校作りのための体制の促進</p> <p>(3) 京都大学・大阪大学との連携</p>	<p>(1) ア・海外研修や国際行事など、国際感覚を身につける機会を充実させる。海外修学旅行(台湾)を継続し、成功させる。派遣型研修として、米国研修を継続し、発展させる。引き続きオーストラリア研修、台湾研修を実施する。受入型交流として、台北第一女子高級中学(4月)韓国慶南女子高校(1月)との交流を実施する。シンガポール語学研修を継続する。</p> <p>イ・国際教育活動において、交流相手校生徒との交流を深めるため、国際交流委員を募り、中身の濃い交流プログラムを確立する。</p> <p>ウ・SSHの重点枠を活用して大阪サイエンスデイや近畿サイエンスデイ等を運営する。</p> <p>エ・天高アカデミアを継続実施する。</p> <p>オ・SSH事業をはじめとする様々な取組みの成果をHPなどの媒体を通じて発信し、広域での成果の共有を図る。</p> <p>(2) ア・支援コーディネーターの専門性を高め教育相談機能を充実させる。生徒情報の共有システムを充実させる。</p> <p>イ・支援コーディネーターと養護教諭を中心にチームで対応する体制と配慮を要する生徒の指導方針を充実させる。</p> <p>ウ・非常変災時における対応を整理し、防災体制を充実させる。</p> <p>(3) 京都大学、大阪大学との連携協定に基づき両大学と連携を維持する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断でSSH・GL事業の満足度90%以上とする。</p> <p>イ・国際交流委員の事後アンケートによる効果検証を行う。</p> <p>ウ・大阪サイエンスデイは、H29同様に2部構成とし、成功させる。近畿サイエンスデイを継続実施する。</p> <p>エ・天高アカデミアの満足度80%以上を維持する。</p> <p>オ・より閲覧しやすいHPを作成し、コンテンツの積極的な更新を行う。</p> <p>(2) ア・研修等に2回以上参加する。そのスキルを教員間で共有する。</p> <p>イ・合理的配慮をおこなうためのノウハウと実践結果を積み上げ、継承していく。</p> <p>ウ・非常変災対応の改訂と周知を行う。</p> <p>(3) 京大キャンパスガイド、阪大ツアー等を継続する</p>	<p>(1) ア 学校教育自己診断におけるSSH、GL事業の満足度は93%であった。()</p> <p>イ 国際交流委員からの事後アンケートでは、生徒の工夫を取り入れた交流ができ、多くの学びがあったという意見が寄せられている。()</p> <p>ウ 第1部の天王寺高校でのポスター発表は、ポスター124本、参加者2千人超となり、第2部オーラル発表(大工大)は38本、参加者700人余と、さらに充実した発表大会となった。近畿サイエンスデイは2月15日開催。()</p> <p>エ 天高アカデミアの満足度96.4%(第1回～第12回の満足度平均) ()</p> <p>オ 行事等イベントの結果をHPで随時更新することができた。また、4月のホームページ改訂に向けて作業中。()</p> <p>(2) ア 支援コーディネーターが2回の教育相談関連研修に参加し、神経精神医学科医師による職員研修兼PTA保護者研修を実施した。()</p> <p>イ 配慮を要する生徒について、教育相談委員会を中心に情報の共有と組織として対応する体制が、構築できた。()</p> <p>ウ 生徒の安否確認システム及び教員のメールによる非常連絡システムを構築した。()</p> <p>(3) 京都大学キャンパスガイドR1.11.3(96名)、大阪大学ツアーR1.11.16(181名)を実施した。()</p>
<p>3 教員の資質の向上</p>	<p>・経験の少ない教員の育成 ・中堅教員の教育力向上 ・学校運営のあり方検討</p>	<p>ア・桃陰塾(着任後の年数が少ない教員の勉強会)首席を世話役として年間7回程度の自主的勉強会(先輩教員の講演、ワークショップなど)を行う。 年間を通して、教員間等での授業研究を促進する。</p> <p>イ・教科指導力の向上をめざして外部講師等の指導法講習会への参加を促進する。</p> <p>ウ・本校の文武両道の理解推進。天高育成プログラムの理解の増進。学校運営のあり方検討。</p> <p>エ・教員の働き方を見直す一環として、教科指導における優れた取組みの共有により、教材準備の効率化を図る。</p>	<p>ア・桃陰塾参加者の満足度80%以上。</p> <p>・公開授業を含む研究授業等を学校全体で10回以上行う。</p> <p>イ・外部講師による指導法講習等への参加のべ5回以上。</p> <p>ウ・学校行事を含め、学校運営のあり方を見つめ直す。学校運営のためのブレインストーミングを行う。</p> <p>エ・授業改善の取組みを職員会議で共有する(年3回以上)</p>	<p>ア・桃陰塾参加者の満足度87.5% () ・「授業力向上を考える会」を4回実施。() ・公開授業を含む研究授業実施のべ16回。()</p> <p>イ 外部講師による指導法研修参加のべ6回。()</p> <p>ウ 安全に配慮した伝統行事の実施体制を確保した。また、主任以外の担任外教員が全員学年に所属することによって相互のサポート体制が強化できた。学校教育自己診断の結果について、ブレインストーミングを行った。()</p> <p>エ 授業力向上を考える会を計4回実施し、その内容を教員全体で共有した。()</p>